



第5回

台湾の学校文化

台湾の学校は基本的に日本と同様に土日休みの完全週休二日制です。

小学校の授業時間について、1年生は午前中で終わります。2年生から6年生までは朝7時半から午後4時まで授業があります。

1年生は学校が終わった後、「安親班」という教育施設に行きます。安親班とは、日本でいう塾に相当する場所です、宿題などの世話をしてもらいます。

台湾は日本と比べると宿題の量が多く、特に週末は多くの宿題が出されますので、日曜日の夜は宿題に追われる子どもが多いようです。

◆義務教育として

昼寝の時間がある

台湾の学校では義務教育として昼休みは30分間昼寝をすることになっていきます。この習



昼寝の時間

慣が身につけているのでオフィスでも昼寝をしてリフレッシュしているそうです。

◆通学は送迎が当たり前

通学といえば、日本では集団登校のように自分で歩いて通うのが一般的ですが、台湾では親が送迎したり、スクールバスでの登下校が基本となっています。校区外からの通学が多いためです。

◆ボーイスカウト

台湾ではボーイスカウト活動が非常に盛んで、多くの子どもたちが入団しています。羅東鎮にある公立東光國民中学のボーイスカウトは70年以上の長い歴史があり、300人以上の団員がい



公立東光國民中学ボーイスカウト



羅東鎮公正國民小学

ます。入団に際しては、学業との両立が条件となっています。主な活動は普段の生活に必要な技術の習得、地域での積極的なボランティア活動などで、海外のボーイスカウトとの国際交流活動も実施されています。これらの実績が評価され、東光國民中学はボーイスカウト優秀学校を受賞しています。

このほか日本との学校文化の違いがたくさんあります。例えば21世紀らしいICT教育環境、黒板ではなくホワイトボードであったり、教師がピンマイクをつけて授業をしたり、校庭の芝生が整備され一般市民に開放されているなど、また機会があれば皆さんにご紹介したいと思います。